

教育目標	児童生徒一人一人の能力や特性に応じた教育を進め、家庭や社会の成員として生活できる人間を育成する		本年度の重点目標	わかりやすい学校経営に努める。 ・児童生徒の主体的な活動の推進及びその指導法の改善を図る。 ・地域のセンター的機能の拡充を図るとともに、保護者や関係機関との連携を深める。	
項目(担当)	重点目標	具体的方策	中間評価		評価結果
総務	・広報活動を拡充 ・地域との連携	・学校報の内容に変化を持たせ魅力あるものにする。 ・学校紹介パネルの内容を充実し活用方法を工夫する。	・形式を三段にしたり、写真を多く取り入れたりして編集に工夫をしている。 ・写真を新しく差し替え、日常的な掲示を行っている。		・編集小委員会を開き、形式を三段にしたり、写真を多く取り入れたりして工夫をした。 ・写真を新しく差し替え、日常的な掲示を行った。
教務	・一人一人に応じた教育システムの確立と充実 ・20年度以降の全校行事の変更に伴う学習内容、学習計画の検討	・「個別の指導計画」の確実な実践と内容の充実を図る。 ・行事の具体的内容、各部行事の配列の見直し、各教科領域の学習配列及び内容を検討する。	・指導計画作成の流れや、学校と保護者との連携を明確化し実践している。 ・来年度以降の行事の見直しも具体化し、各部・教科において学習内容の検討を進めている。		・来年度から通知表として、「個別の指導計画」の手だて及び評価の内容を伝える様式に変更することにより、保護者により細かな情報を提供できるようにした。 ・行事の見直しに伴い、各指導形態における年間指導計画モデル案の見直しを行い、充実を図ることができた。
生徒指導	・多様化する登下校手段の整理と安全対策 ・災害時における児童生徒の安全対策	・ヘルパー等の事業所利用による送迎の状況を整理し、児童生徒の引き渡し計画を作成する。 ・非常災害時の児童生徒の下校計画の整備を進める。	・下校時における送迎事業者の待機から乗車、出発にいたる手順及び各駐車場を立案して事業者へ伝え、実施した。 ・各部の児童生徒の乗降場所及び手順、車両の進入・退出経路について検討を進めている。		・下校時における送迎事業者の待機から乗車、出発にいたる手順の理解・浸透が図れ、円滑に下校を行うことができた。 ・児童生徒の乗降場所及び手順、車両の進入・退出経路について意見調整を行い、災害時の下校の全体計画を作成した。
進路指導	・個に応じた進路指導の充実 ・保護者の進路理解促進	・就労支援をとおり、「個別移行支援計画」の活用状況を検証する。 ・進路講話会の改善など、保護者への情報提供を図る。	・就労支援時に活用状況を確認し、「個別移行支援計画」の記載内容を検討している。 ・進路講話会の一本化を図り、地域全体に進路情報を提供できるように検討している。		・「個別移行支援計画」をより活用できるように記載内容を検討し、一部変更した後、策定した。 ・進路講話会では、一宮市福祉課から講師を招いて、障害者自立支援法について広く保護者に情報を提供した。
保健体育	・児童生徒の健康安全意識の向上	・来室者の安全かつ円滑な対応ができる保健室環境の整備、充実を図る。 ・清潔に対する意識を高める指導の充実を図る。	・県整備PCの導入に伴い、机、ロッカー等の移動を含め、保健室環境整備について再検討している。 ・養護教諭によるブラッシング指導の方法と実施時期の計画を立案した。		・机、ロッカー等の配置替えを行い、来室者の安全かつ円滑な対応のできるスペースを確保した。 ・計画どおりにブラッシング指導を実施し、個別に指導結果のプリントを配付して家庭への啓発にも努めた。
視聴覚	・図書室の利用促進 ・視聴覚機器の適切な活用	・児童生徒が本に触れ合う機会を増やす。 ・視聴覚機器を活用した授業や行事の取組を充実する。	・大型絵本や仕掛け絵本等の、児童生徒が楽しめる図書をより充実させた。 ・機器の保管場所や注意事項等について分かり易く示しながら、利用促進と破損防止の両立を図った。		・貸出・返却システムの円滑化を図るとともに、図書室の整頓に努めて、児童生徒が快く本に触れ合える環境を整えた。 ・視聴覚機器の活用頻度が上がり、全ての行事や学習活動で、大きな支障無く機器を活用できた。整頓状況も良好であった。
研修	・職員研修の充実	・特別支援教育や発達障害について理解を深める研修会を実施し、実践に生かす。	・夏季休業中、講師を招いて発達障害についての勉強会を実施した。全校研究では、「自閉症児のその支援」をテーマに掲げ3年計画で取り組んでいる。本年度は、初年度にあたる。		・夏季休業中、講師を招いて発達障害についての勉強会を開き、研修を深めることができた。また、全校研究では、「自閉症児の教育その支援」をテーマに掲げ3年計画で取り組んでおり、初年度、具体的手がかりの幾つかを得ることができた。
情報	・アイシステムへの移行支援と情報教育の推進 ・校内情報化推進のための管理活用	・職員への迅速な情報提供と積極的な技術的支援を図る。 ・情報セキュリティーポリシーに依る運用と情報モラルの向上を図る。	・現在校内整備の進行中であり、整備パソコン等を利用しやすいように支援マニュアルの作成を進めている。 ・個人PCの利用申請により、情報管理意識向上の啓発ができた。		・支援マニュアルの作成や情報提供のための掲示板を整備した。増加する連絡事項や技術支援を迅速に提供できた。 ・本校の実施手順書を作成し、全職員に配布、運用を開始した。利用申請などの手続きを通して情報モラル向上を図れた。
地域支援	・教育相談の充実 ・地域支援システムの整備	・相談担当者の拡充と相談研修を積み、業務の向上を図る。 ・校内の地域支援に生かせる情報の整理を進め、地域発信の方法を探る。	・校務部会で事例情報等を共有し、地域支援部全身体制の下、たんぼ相談(夏季)を実施した。 ・研修部と連携して、特別支援教育研修会を開催した。学区小中学校特別支援学級担当者の参加が多数あった。		・校務部会で事例情報を共有し、地域支援部全身体制の下、たんぼ相談(夏季)を実施した。よい相談研修となった。 ・研修部との連携で、特別支援教育研修会を実施した。学区小中学校特別支援学級担当者の参加が多数あった。
総合評価	・障害特性に応じた支援のあり方や学習内容、学習計画の検討を行った。これらの取組により児童生徒の主体的な活動が見られるようになった。有効な指導法等を職員が共有し、実践・検証・再検討していく必要がある。 ・各分掌が連携して研究・研修に努めるとともに、健康で安全な地域のセンター的機能への期待に応えることができた。専門性の向上に一層努める必要がある。				